

(資料紹介)

明治十八年共進会審査報告書

来間 泰男

ここで紹介するのは、明治十八年(一八八五年)に東京で開催された「繭・糸・織物・陶漆器共進会」の審査報告書である。同種のものとは他の年度についてもあり、うち一つは『沖縄県農林水産行政史』第十巻・農業資料編Ⅰ(同編集委員会編、農林統計協会発行、一九八一年)に「府県連合共進会審査復命書」と題して、「明治四十三年開設シタル福岡県主催第十三回九州沖縄八県連合共進会」に関するものが収録されている。ここで「明治十八年共進会審査報告書」と表題を付けたのは、右の文献と並べるためである。今後、他の年度のものも随時収集して、発表していきたいと考えている。

なお、この文献は国会図書館に所蔵されているが、そこでの文献名は「繭糸織物陶器漆器共進会審査報告」となっており、八冊に分かれている。ここではその中から、沖縄県に関するもののみを抄録することにした。

一、繭

まず序文があつて、明治十八年八月付で、「審査官兼審査報告員斎藤素軒」から「繭糸織物陶漆器共進会・審査長・田中芳男殿」にあてられ

ている。

繭糸織物陶漆器共進会第壹区繭審査報告

目次

- 第一 府県列品審査ノ概況
- 第二 繭各種回数糸量比較表
- 第三 府県等級区分表
- 第四 審査一覽表
- 第五 功労賞及び追賞人名
- 第六 参考室列品摘録
 - (甲) 蚕繅糸及繭綿
 - (乙) 蚕兒ノ發育及其成分ノ試験表
 - (丙) 蚕病図解及解説
- 第七 本会列品提要
- 第八 青熟ノ原由
- 付録
 - 講話会筆記
 - 第一 本会出品ノ景況
 - 第二 試験上ノ結果
 - 第三 養蚕法ノ得失
 - 第四 養蚕家団結ノ利益
 - 第五 黒痣病学理及実験

蚕兒呼吸説

第六

蚕踊呼吸説

蛆害ノ原由

このうち「第一 府県列品審査ノ概況」は「沖縄県」の項で次のように記している。他に記述はない。

本県ハ一二ノ属島ニ於テ、山桑ヲ以テ蚕業ニ従事スルモノアレト、本会ニ於テハ列品ヲ欠ク。

なお、奥付は「明治一八年十月十五日出版届／農務局・工務局／発兌有隣堂 御用書肆・穴山篤太郎／東京々橋区南伝馬町二丁目十三番地」とある。

二、生糸

まず序文があつて、明治十八年八月付けで、「審査官兼審査報告員・高橋信貞」から「繭糸織物陶漆器共進会・審査長・田中芳男殿」にあてられている。

繭糸織物陶漆器共進会第二区一類生糸審査報告

目次

第一 府県列品生糸概論

第二 審査一覧表

第三 府県生糸等級区分表

第四 柞繭及山繭生糸試験表

第五 府県列品生糸練減表

第六 功労賞及追賞人名

第七 余論

附 録

講話会筆記

第一 生糸機械的検査ノ状況

第二 生糸機械改良ノ要点

第三 生糸束装改良ノ方法

第四 内外生糸比較ノ感想 附 朝鮮生糸評語

第五 横浜市場生糸ノ景況

第六 製糸家団結ノ効力

第七 製糸家ノ方向及欧米諸国生糸需給ノ景況

このうち「第一 府県列品生糸概論」は「沖縄県」の項で次のように記している。他に記述はない。奥付は前項に同じ。

本県ニハ従来蚕糸ヲ産スレトモ、紬織ノ需用ニ供スルノミニテ、製糸ヲ業トスルモノナシ。故ニ出陳ヲ欠ク。

三、織物

まず序文があつて、明治十八年八月付けで、「審査官兼審査報告員・金子精一」から「繭糸織物陶漆器共進会、審査長、田中芳男殿」にあてられている。

繭糸織物陶漆器共進会第三区織物審査報告

目次

- 第一 総説
- 第二 三類ノ概評
- 第三 各府県出品ノ評説
- 第四 受賞人員表
- 第五 功労賞并追賞人名
- 第六 参考室出品織物表

附 録

講話会筆記

- 第一 共進会出品織物ノ概況
并輸出ノ目的
- 第二 織物ニ関スル本邦固有
配色ノ論
- 第三 織物ニ適用スル生糸ノ撰方
并撚糸ノ意見
- 第四 染色ノ実験

明治十八年共進会審査調査報告書

第五 文部省参考出品ノ説明

附 実行ノ計画

第六 染色改良ノ意見

第七 文部省参考室出品染物標本ノ解説

「第一 総説」では冒頭で「本区ハ之ヲ分テ三類ト為ス。第一類絹織物、第二類本綿織物、第三類麻毛ノ織物及各種ノ交織物はナリ」と述べ、「各府県ノ出品数及人員ヲ表示」している。沖縄県は第一類品数六〇、人員二七、第二類品数四〇八、人員四〇、第三類品数九〇、人員二八、計品数五五八、人員九五となっている。また「一百以上ノ出品アルモノ」を「列載」しているが、その第二類の項に「沖縄・木綿絣」が含まれている。

また「第三 各府県出品ノ評説」では第一類の「沖縄県」の項では次のように記している。

本県及鹿児島県大隅ノ紬ハ、人称シテ琉球紬ト云フ。世ニ名アリ。然レトモ、其糸質ヨリ組織染色ニ至ルマテ、一モ見ルベキ者ナシ。而シテ其価非常ニ貴キハ、抑如何ナル理由ナルヤ、吾儕之ヲ知ラズ。近頃桐生、八王子等ニテ擬造スルモノ、其染色絳模様之ヲ該紬ニ比スレバ、遙ニ優リタレトモ、需用者却テ之ヲ擯斥シテ、高価ノ琉球紬ヲ嗜ム。其意亦甚タ解シ難シ。盖シ奇ヲ好ムハ人情ノ常ナリ。是亦其奇癖ニ因ルモノ邪、非邪。

附言 大島紬ヲ染ムルニ「ヘバルキ」ヲ用フ。是レ尋常ノ「ハマモ

クコク」ニ異ナラス。染料ニハ岩磯ノ間ニ在ル老木ノ根皮ヲ以テス。皮柔シニモ之ヲ用フト云フ。又紬染ニ「タカツク」木皮ヲ用フレトモ、是ハ産地ニ限リアレバ、一般ニ使用セズ。「タカツク」木ニ二種アリ。一ヲ「ヲヒルギ」ト云フ。葉大ニシテ、根揚ラス。之ヲ以テ染ムレバ光沢少シ。一ヲ「メヒルギ」ト云フ。葉小ニシテ、根揚レリ。是レ尋常ノ「タカツク」ハ舶来ノ丹柄即チ紅樹皮ノ種類ニシテ、其効能亦之ニ異ナラス」ニシテ、染料ニ供シテ光沢ヲ出ス。島民之ヲ貴ブ。沖縄県久米島、八重山、宮古等、専ラ之ヲ用フ。其方言一般ニ「ヒルキ」ト唱フ。染方ハ先ツ「ヘバルキ」ヲ以テ染メ、紋ヲ図キ、之ヲ芭蕉ノ纖維ニテ結束シ、鉄気ある泥水、或ハ田ノ中ニ投シテ、踏付ケ、取出シテ結束ヲ解クナリ。

次に第三類の「沖縄県」の項では次のように記している（なお、第二類については、紹介者の見落しかもしれない。追って補充したい。）

本県出品ノ上布ハ、地合堂牢ナラサレトモ、糸質ハ洋種ト同シク平ニシテ良シ。絣模様モ亦可ナレトモ、其価ノ貴キコト驚クニ堪ヘタリ。サレハ務テ其価ヲ減殺スルノ法ヲ求メサル可ラス。審査官森山芳平曰、琉球ノ織物ヲシテ、内地ノ品ニ模擬セシメハ、却テ声価ヲ墜シ、信用ヲ失フニ至ルベシ。故ニ、其習慣ハ、漫ニ改メサル方然ルベシト。附言 沖縄ノ芋ハ唐芋ト云、其性質美良ニシテ、且ツ、毎年六度ノ收穫アリ。多ク北谷ニ産ス。宮古島其他ノ人之ヲ購テ、上布ヲ織ル。其法、初メ唐芋ヲ一日水ニ浸シ、芋ノ赤ミヲ晒シ抜キ、調経ヲ作り、

日ニ曝シ、山藍ヲ以テ之ヲ染メ、干シ揚ケテ、能ク水洗ス。此ノ如ク染テ干カシ、又水ニテ洗フコト五、六回、乃至七、八回ニシテ、後ニ織ルナリ。故ニ、最上ノ品ハ一ヶ年ニテハ仕上ケニ至ラズト云フ。是レ価ノ貴キ所以ナリ。

（伝記）琉球ノ紺細上布ハ、古来綾サベト唱フ。天正十一年（明暦万曆十一年癸亥）栄川姓下地親雲上真栄妻イナユシ、創テ織成スト云フ。

「第四 受賞人員表」には、「四等賞」として「第三類・上布」の欄に、「平良間切 池間村 宮城カメ」と「砂川間切 福里村 砂川マツ」がある。このほか、氏名はないが、五等賞に三類一、六等賞に二類四、三類二、七等賞に二類一、小計二類五、三類五、合計一〇、割合〇・一〇とある。

「第五 功労賞並ニ追賞人名」の「追賞」の欄に、次の記述がある。

沖縄県琉球国首里赤田村

田名真喜遠祖

金貳拾円

故儀 間 真 常

慶長年間、自ラ薩摩ニ渡リ、或ハ寄寓ノ工女ニ就テ織物ノ法ヲ学ヒ、刻苦黽勉、創メテ琉球木綿織ヲ製ス。爾来、其業漸ク振ヒ、終ニ地方ノ一大物産ヲナス。後人遺沢ヲ蒙ル者少ナカラス。其功績著ルシ。因テ之ヲ追賞ス。

なお、奥付は前項に同じ。

四、陶器

陶器についての「審査報告」は「審査部長兼報告員・塩田真」が「編述」したとある。目次は引用を略する。

「第一 緒言」の中で「陶器府県出品表」があり、沖繩県は出品数七一、出品人員一一、会場間数（但、奥行ハ三尺ト一定セルヲ以テ、別ニ之ヲ掲ケス）二間とある。また、「明治十八年六月 府県製陶業人員一覽表」には陶工、陶画工、陶器産出代価とも「不詳」となっている。「第四 概論」は府県別に書かれていて、「沖繩県」については次のように記されている。

此県ノ出品ハ陶器ノ一種ナリ。

琉球国那覇泉崎村陶工島袋常男出品ノ阿ン瓶（提梁アル水注）、居瓶、（火酒ヲ貯フル大口ノ壺ニシテ、花瓶ニ用ウルヲ得ヘキモノ）、耐家（細口ノ二升徳利）ハ、深緑釉、黒褐釉ヲ襲過シ、形状甚タ整ヒ、釉質モ亦佳ナリ。且、鎔解ノ度其適ヲ得ルモノハ、恰モ高取釉ニ類シテ、稍軟ニ且膩潤アリ。白焼ノモノニハ湯耐々家（銚子）、茶家（土瓶）、菜皿、小皿、中皿、中小茶碗、薄茶々碗、大小杯、井、覗キ猪口、筍寒（汁アル菜ヲ盛ル可キ蓋ナキ大碗）等ナリ。或ハ水色彩ヲ器表ニ塗装シ、釘尖ヲ以テ雲紋ヲ彫スルモノアリ。或ハ嫩緑色ノ器表ヲ団扇状ニ白シ、其内ニ彩花ヲ描クモノアリ。共ニ品致卑シトス。白釉上ニ赤黄青ノ三色ヲ用キテ、花卉ヲ描ケルモノ、中、稍雅韻アリテ観ル

可キモノアリ。然レトモ、坏質焼透セス。試ニ破リテ之ヲ舐レハ、破口津沫ヲ吸入ス。故ニ每器脆弱ニシテ、表釉十分ノ鎔解ヲ致サス。其土瓶銚子ハ薩摩製器ノ形状ヲ全用スルモ、底甚タ厚重ニ失ス。概シテ居瓶、阿ン瓶ノ工ニ如カストス。宜ク表釉ヲ綿密ニシ、一層ノ火力ヲ与ヘ、其面目ヲ改良ス可シ。

奥付は前項に同じ。

五、漆器

まず、目次を掲げる。

蘭糸織物陶漆器共進会第四区式類漆器審査報告

目次

- 第一 〇 総論
- 第二 〇 府県漆工描金工現員表
- 第三 〇 出品大綱表 附 受賞人名表
功勞賞人名表
- 第四 〇 審査擬賞稟告書
- 第五 〇 功勞賞追賞稟告書并宣達
- 第六 〇 府県評論ノ部（抄録）
- （キ） 沖繩県 分評 八名
総評
- 第七 〇 特別独評ノ部（内訳略）
- 第八 〇 特別合評ノ部（内訳略）

沖縄からの「出品々種之數」三六一、「人員」二〇、「受賞人之數」二、「陳列間數」四・三、受賞者は六等賞（木杯三ツ重一組）山城正心、七等賞（木杯一個）運天常宣、「府県漆工、描金工現員表」では漆工の欄に「營業者ナシ」とある。

「第六 府県評論ノ部」の「(キ) 沖縄県」では次のように記している。なお(キ)というのは、イロハ：アサキユの中の(キ)という意味である。

(キ) 沖縄県

出品 三百六十一種

人員 二十名 内、受賞二名、無賞十七名

六等賞

山城正心

七等賞

運天常宣

山城正心（琉球国那覇若狭町村）出品ハ、会席膳具ヲ首トシ、東道盆、膳、盆、重箱、菓子皿、行厨、碗、盃、木皿、飯鉢等、六十八種、其黄漆ヲ髹スルモノハ數器ニシテ、他ハ悉ク朱漆ヲ髹セリ。他ノ出品ニ比スレハ、概シテ佳作トス。二個ノ東道盆ト称スルモノハ、長方形ニシテ、蓋アリ。内ニ數個ノ皿ヲ安ス可クス。外面一ハ朱漆ニ沈金彫刻ヲナシ、画ハ明清画譜体ノ草花ヲ図シ、詩句ヲ題ス。一ハ同形同図ニシテ、青螺ヲ嵌ス。此二品ハ出品中第一ノ佳作トス。以テ特評ニ掲ク。又杓櫛ノ髹根（海中植物）ヲ以テ製シタル膳盆アリ。此器類ハ最モ不可トナスヲ以テ、亦特評ニ譲ル。

運天常宣（同村）出品ハ、概ネ山城ニ同シク、会席膳具、東道盆ノ二

種ヲ欠クノミ。然シテ他ニ比類ナキハ、木地呂碗ノ一種ナリ。其材質ハ内地ニ見サル美良ナルモノニシテ、髹漆モ亦佳適ス。該地ノ出品朱色満架ノ間ニ在テハ清楚ニシテ、殊ニ佳品ナルヲ覺ヘタリ。又角膳ハ同種多數ノ出品中ニ於テ、稍上位ヲ占ム。他品モ概シテ難点ナシ。

以下無賞

金城順盛（同村）出品ハ、五十四種、品類前者ニ同ジク、製作ハ無賞中ノ第一トス。

屋比久英豪（同村）出品ハ、三十四種、品類前ニ同ジ。朱漆、黄漆ノ膳二種ハ佳作トス。杓櫛ヲ以テ製シタル膳ハ不可ナリ。以テ特評ニ附ス。

糸數昌委（同村）出品十三種中、菓子重ニ青螺ヲ以テ龍ノ図ヲ附シタルモノハ、稍觀ルニ足ル。余ハ他ト同種同等ナリ。

新垣実彰（同村）出品ハ、鉢二種、菓子皿二種、重箱四種ナリ。総シテ朱漆ニ沈金彫刻ヲナス。支那製ニ擬シタルヲ以テ、拙ト雖トモ稍見ルニ足ル。

大見謝恒惇（同村）出品ハ、碗、膳、盃、皿等ノ五種トス。中ニ就テ碗ノ一種ハ佳製ニシテ、稍廉価ニ膳ノ髹漆モ亦美ナリトス。

知念喜信（同村）ノ出品ハ、碗、東道盆、菓子皿、重箱等ノ七種トス。中ニ就テ六稜ノ東道盆ニ沈金彫刻ヲナシタルモノ、稍見ル可シ。然トモ山城ノ製品ニ比スレハ、甚タ劣レリ。

沖縄県総評

本県出品ハ概ネ一樣ニシテ、佳否少ナシ。前ニ挙サル品ト雖トモ、亦敢テ粗ナリトセス。唯髹面光沢多キモ、古昔ノ物ニ比スレハ朱色鮮美

ヲ欠キ、器質堅牢ナラスシテ、価直ノ貴キヲ覺ウ。是レ時勢ニ随テ然ル乎。且ツ漆下ニ一種蠟質ノ脂ヲ髹シ、又漆中ニ桐油ヲ投入スルコト殊ニ多量ナルヲ以テ、若シ爪尖ヲ以テ之ヲ搔ケハ、容易ニ剥脱スルモノアリ。或ハ成器貯藏久シカラサルニ因ルモノナル可シト雖トモ、一ハ髹法ノ精ナラサルニ由ル。望ムラクハ髹面滑沢ニ乏シキモ、往時ノ堅実ナル製法ニ復センコトヲ。

なお、この資料は紹介者が沖縄県農業会議の便宜を得て、沖縄県農林水産行政史の編集事業の参考資料として入手したものの中から紹介させていただいたことを記しておきたい。また、引用にあたっては、旧字体を新字体に変え、適宜句読点をかえた。子↓ネ、┘↓コト、モ↓トモ、ノ↓シテ。